

白石町文化財調査報告書第5集

妻 山 遺 跡

— B 地 区 —

平成5年3月

佐賀県白石町教育委員会

白石町文化財調査報告書第5集

妻 山 遺 跡

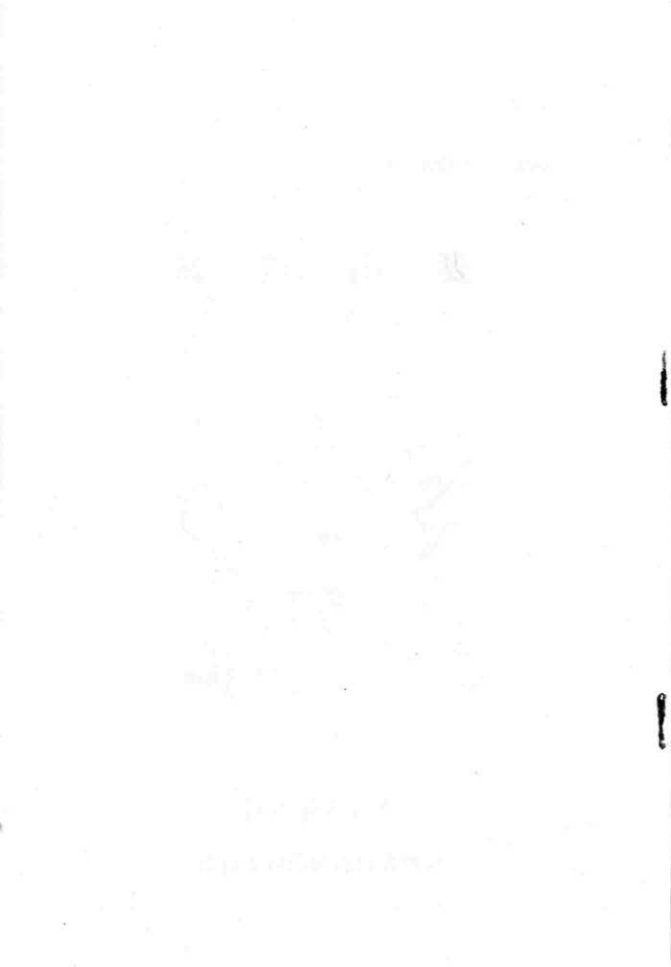
— B 地 区 —

白石町位置図



平成5年3月

佐賀県白石町教育委員会



序

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の施行に先がけて、平成3年度に発掘調査を実施した妻山遺跡B地区の調査報告書です。

白石町では昭和62年度から本格的な文化財調査を開始し、杵島山丘陵東山麓部を中心として弥生時代から奈良時代にかけて古代の様相が、少しずつ明らかになってきています。

遺跡は、我々、祖先の生活の営みを具体的に示してくれる貴重な文化遺産です。町民の共有財産として、未来に保存していくことは、現代を生きる我々の重大な責任であります。

今回の発掘調査によって得られた貴重な結果が、白石町の歴史を教えてくれる資料となり、文化財に対する理解と啓蒙の一助となれば幸いに存じます。

また、この調査にあたりご理解とご協力を賜りました佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・白石町土地改良区（課）並びに地元関係各位に、心からお礼申し上げます。

平成5年3月

佐賀県白石町教育委員会

教育長 吉 田 忠

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成3年度に実施した妻山遺跡B地区の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、佐賀県農林部の委託と国庫補助金を受けて白石町教育委員会が実施した。
3. 遺跡の遺構実測は、一部を有限会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
4. 遺構・遺物の写真撮影は調査員が実施した。
5. 遺物の洗浄・復元・実測・製図は、調査員及び整理作業員が実施した。
6. 本書の執筆・編集は渡部俊哉が実施した。

凡 例

1. 遺構番号については各遺構毎に一連番号とし、その前にSK=土壌、SD=溝の分類記号を標記した。
2. 挿図中に用いた方位は、磁北を示す。
3. 遺物実測図中において、須恵器は断面を黒く塗りつぶした。
4. 図版内の遺物写真については、挿図と対照できるように()内に挿図番号と挿図内遺物番号を併記した。

本 文 目 次

I 序説..... 1	III 調査の記録..... 6
1. 調査にいたる経緯..... 1	1. B地区の概要..... 6
2. 調査体制..... 1	2. 遺構と遺物..... 6
II 遺跡の位置と環境..... 2	(1)土壌..... 6
1. 遺跡の位置..... 2	(2)溝..... 10
2. 歴史的環境..... 2	3. その他の遺物..... 10
	IV 小結..... 11

挿 図 目 次

Fig. 1	町内主要遺跡分布図	3
Fig. 2	調査地区位置図	4
Fig. 3	S K036実測図	6
Fig. 4	S K036出土遺物実測図 (1)	7
Fig. 5	S K036出土遺物実測図 (2)	8
Fig. 6	S K037実測図	9
Fig. 7	S K038・039実測図	9
Fig. 8	S K037・038・039出土遺物実測図	10
Fig. 9	S K043出土遺物実測図	10
Fig. 10	S D001出土遺物実測図	11
Fig. 11	包含層出土遺物実測図	11
Fig. 12	石包丁実測図	11
Fig. 13	遺構配置図	12~13

図 版 目 次

P L. 1	1. S K036 (西から)
	2. S K036遺物出土状況 (南から)
	3. S K036遺物出土状況 (東から)
	4. S K036土層堆積状況 (東から)
P L. 2	1. S K037 (北から)
	2. S K039 (西から)
	3. S K043 (西から)
	4. 包含層 (西から)
P L. 3	S K030出土遺物
P L. 4	S K036・037・038出土遺物
P L. 5	S K039・043、S D001、包含層出土遺物

I. 序 説

1. 調査にいたる経緯

白石町では、昭和51年度より農業基盤整備事業が実施されている。白石西第4工区においては、平成3年度に17.7haが計画されたため、前年度の平成2年度に佐賀県文化財課の協力を受け、水路計画部分について文化財確認調査実施したところ、弥生土器・近世陶磁器の出土があり、当該時期の集落の存在することが推定された。確認調査結果に基づき、佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・白石町土地改良区（課）・白石町教育委員会の四者で協議を重ねた結果、削平される水路計画部分について発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図ることになった。

発掘調査は佐賀県農林部との委託と国庫補助金により、白石町教育委員会が平成3年度に実施した。

2. 調査体制

調査体制	白石町教育委員会
事務局	教 育 長 吉 田 忠
	社会教育課長 副 島 繁
	社会教育係長 栗 山 和 久
	社会教育課主事 武 富 健
	〃 瀬戸口 玲 子
調査員	社会教育課主事 渡 部 俊 哉
調査指導	佐賀県教育委員会文化財課
発掘・整理 作業員	稲富敦子・洲上房枝・田中順子・山口登美子・副島武子・江口幸子・溝口 京子・溝口則子・川崎亮子
調査協力	地元各位・佐賀県農林部・白石町土地改良区（課）

II. 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

妻山遺跡は白石町大字馬洗字馬洗に位置する。白石平野西端をほぼ南北に延びる杵島山丘陵から東に延びる妻山丘陵東端の南山麓部分、標高約3.8mの水田地帯に存在する。遺跡の東約100m地点には、県道錦江・大町線が北西から南西へと走る。

南山麓部に広がる集落に沿って、西側から東側へと小水路が走り、調査地区内でもこの小水路の旧水路が一部蛇行して検出されている。

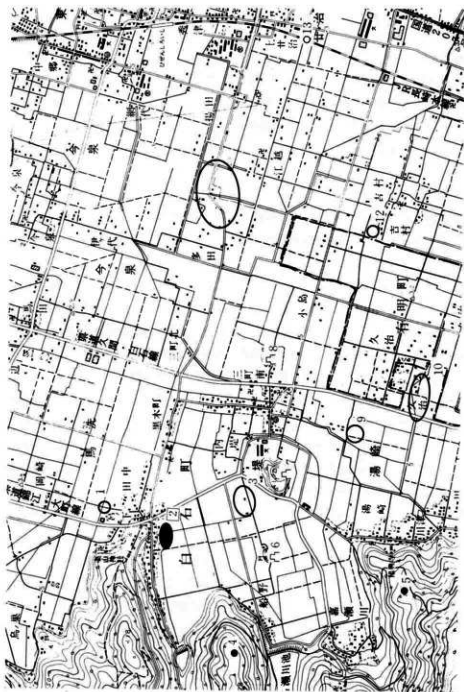
2. 歴史的環境

白石平野における古代の遺跡分布は、主に杵島山丘陵の東側山麓部に集中する傾向にある。このことは、白石平野が西側から東側へと自然に陸地化していったという地形的な条件に依るところが多いものと考えられる。

現在までの時点で、発掘調査によって判明している状況を述べると、縄文時代の遺跡については不明な点が多い。高城跡西方の船野遺跡において晩期の鉢等が出土しているが、明確な遺構に伴うものではなく、またその数も少量である。本格的な集落が形成されるのは、弥生時代からである。前期末から中期後半にかけて船野遺跡が大規模な集落として登場する^①。軟弱地盤という白石平野独特の地形的条件により、堅穴式住居ではなく横木・枕木を使用する「根がらみ工法」や礎板を使用した高床式建物のみが検出されている。全貌は未確認であるが、全長約90cmを計る泉下でも類例をみない大きな礎板が使用されている高床式建物も1棟検出されている。続く後期になると、高城跡南方の湯崎東遺跡が形成され、船野遺跡と同じく「根がらみ工法」を使用する高床式建物が検出されているが、「筏基礎工法」をとる一間四方の高床式建物も確認されており、地盤沈下対策に対する技術の進歩が窺われる^②。

妻山丘陵において昭和36年の林道工事中に、数基の甕棺と箱式石棺・石蓋土壇1基が発見されている^③。

古墳時代の遺跡としては、前期～後期の湯崎東遺跡、後期の久治遺跡・多田遺跡^④が知られている。これら各遺跡からは、住居跡が検出されておらず不明な点が多いが、湯崎東遺跡からは陶器産の甕が検出されている^⑤。杵島山系から延びる小丘陵の尾根上には多数の古墳が築造されているが、前期に遡る古墳は確認されていない。5世紀末から6世紀初頭の古墳として、妻山神社西方の妻山古墳群1号墳や船野山古墳群1号墳（通称、かぶと塚・白石町史跡）が知られている。船野山古墳群1号墳については昭和48年に県文化課の調査により、径約40mの円墳に内包される全長約8mの単室兩袖式横穴式石室から鉄刀・鉄剣・鉄鏃・短甲片が出土し、墳丘からは線刻のある円筒埴輪片も採集されている^⑥。湯崎地区の陽興寺裏山には、4基の小円墳を伴い全長約40mを測る前方後円墳の湯崎古墳群が築造されている^⑦。詳細は不明であるが、6世紀代の築造と考えられる。この他、後期の群集墳が多数形成されていたのだが、大多数がみか



- | | | | |
|---------------|----------|----------|--------------|
| 1. 馬洗上黒木遺跡 | 2. 泰山遺跡 | 3. 船野遺跡 | 4. 船野山古墳群1号墳 |
| 5. 湯崎古墳群 | 6. 杵島城跡 | 7. 高城跡 | 8. 小島城跡 |
| 9. 湯崎東遺跡 | 10. 久治遺跡 | 11. 多田遺跡 | 12. 吉村遺跡 |
| 13. 遼ノ江一本松龍道跡 | | | |

Fig. 1 町内主要道跡分布図 (S=1/25,000)

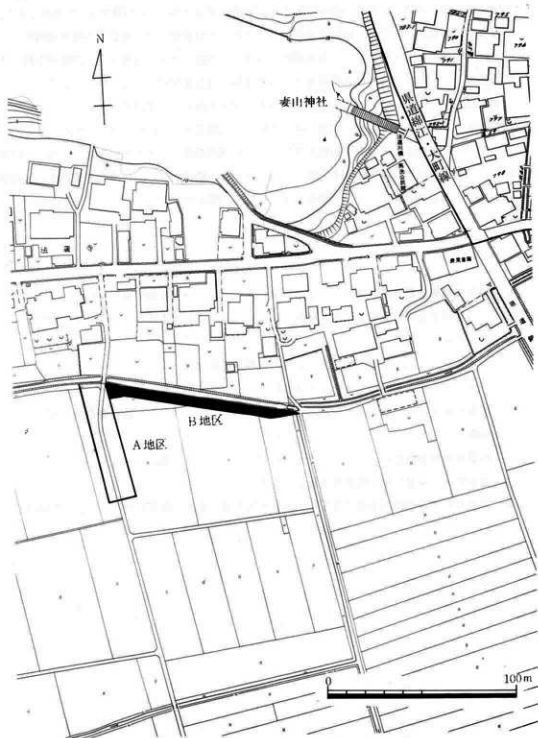


Fig. 2 調査地区 (B地区) 位置図 (S=1/2,000)

ん園造成の際に消滅し、当初の姿を留めるのは野柄古墳群1号墳(白石町史跡)等少数である。^⑥

奈良時代の遺跡としては、湯崎東遺跡・久治遺跡・多田遺跡が知られる。湯崎東遺跡からは無記銘であるが付札木簡1本が、多田遺跡からは「大神部」と記される木簡、比較的多数の墨書土器等が出土しており、杵島山系東方における中心的な集落であったと推定される。

中世以降の状況については、あまり発掘調査が実施されておらず詳細の不明な点が多い。戦国時代末期に高城主平井経治と佐賀の龍造寺隆信との間で4度にわたる激しい戦闘が繰り広げられたが、高城跡北西部にあたる船野遺跡内から高城内濠跡の一部が検出されている。吉村遺跡からは17世紀後半～18世紀前半の唐津焼・伊万里焼の肥前陶磁器が、湯崎東遺跡からは近世墓地跡が、多田遺跡からは近世の環濠と推定される遺構が検出されている。

〔文献〕

- ①『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 10』 佐賀県教育委員会 1992年
- ②『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 8』 佐賀県教育委員会 1990年
- ③『白石町史』 1974年
- ④『多田遺跡-A・B・C・D地区-』白石町教育委員会 1993年
『多田遺跡-E・F・G・H・I・J地区-』白石町教育委員会 1992年
- ⑤『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 4』 佐賀県教育委員会 1986年
- ⑥ 文献③に同じ
- ⑦ 佐賀県教育委員会により、墳丘平面実測図が作成されている。
- ⑧『白石町の文化財』白石町教育委員会 1988年
- ⑨『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 6』 佐賀県教育委員会 1988年

III. 調査の記録

1. B地区の概要

東西方向の小水路計画部分を発掘調査したが、耕作土を除去すると直下に遺構が現れた。遺構としては土壇と弥生時代の包含層、調査地区北側を東側へ流れる小水路の旧河道が検出された。

2. 遺構と遺物

(1)土壇

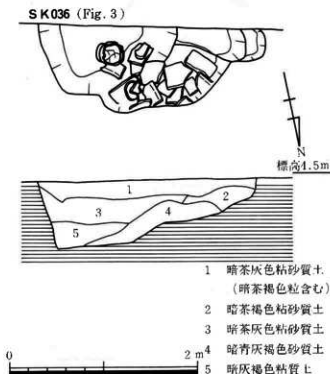


Fig. 3 SK036実測図 (S=1/40)

S K036出土遺物

土器 (Fig. 4)

1は全長3.1cm、直径1.6cmの土弾である。2は復元口径9.6cm、器高5.1cmの青磁碗で、淡青緑色の釉がかかり、畳付は露胎。3は胴部が算盤球状の青磁で、胴部最大径8.4cm、高台径4.3cm。暗緑灰色の釉がかかり、胴部内面と高台外面は露胎。4は染付碗で高台径2.8cm。内面と高台外面に各1条、2条の圈線が巡る。5は復元口径10.0cm、器高2.3cmを測る染付碗で、外面に三段一単位の圈線が、高台内面には花卉状の紋様を描く。6は復元口径22.0cm、器高3.4cmの染付皿で、内面に飛翔する鳥を描き、畳付は露胎。7は瓦質の風炉で口径17.0cm、器高18.4cm、高台径18.8cm。胴部と高台は回転横ナデ調整、底部は横方向ナデ調整。把

調査地区の制限から全体を確認できなかったが、検出された範囲内では東西長約2.4m、南北長約0.8mを測る。掘り方は東側は急な一段掘りで、深さ約0.7mを測り、西側はゆるやかな三段掘りを示す。埋土は5層に分層される。

北側掘り方斜面から、平瓦片10数枚、三巴紋の軒丸瓦片2枚が検出されたが、軒平瓦は検出されなかった。底部からは、瓦質の風炉と思われる土器が出土した。

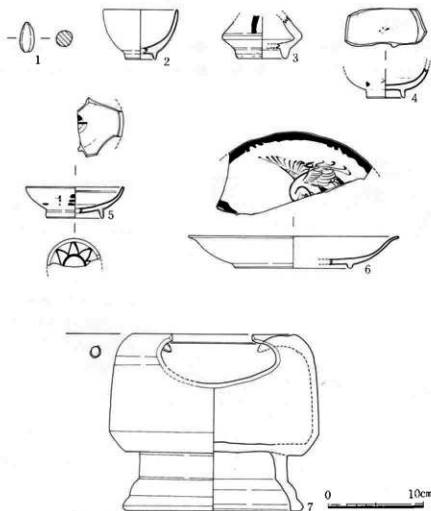


Fig. 4 SK036出土遺物実測図(1) (S=1/4)

手状受部は3ヶ所に付くのであろう。火袋左側に墨書らしきものが認められるが判読不能。胴部上位に径1.0cmの小穴が1ヶ所ある。

瓦 (Fig. 5)

1は瓦当径14.0cmで、内区は右巻きの三巴文で頭部は丸く尾は短い。外区内縁にはやや大きな珠文9個を配する。丸瓦の取付けは外区にあたる。2は半分程しか残存しないが、復元瓦当径14.0cmで、内区の紋様は1とほぼ同じになると思われる。

SK037 (Fig. 6)

調査地区の制限から全体を確認できなかったが、検出された範囲では南北長1.2cm、東西長1.4mで、隅丸長方形を示すと考えられる。掘り方は急であり、深さ0.8mを測る。埋土は7層に分層でき、6層の暗青褐色粘質土には木屑が多量に混在していた。

SK037出土遺物 (Fig. 8-1~7)

1は白磁碗で完形。口径7.4cm、器高5.0cm。底部は糸切底で露胎。2は陶器茶瓶の蓋でつまみ部を欠失する。口径5.8cmで、天井部のみに暗茶褐色の釉がかかり、細かい貫入がある。3は陶器茶瓶で復元口径8.4cm、胴部最大径16.8cm。三角形の把手には小孔が開き、胴部上部外面のみに瑠璃色の釉がかかり細かい貫入がみられる。2と3はセットになるものか。4・5は染付碗で、4は復元口径6.8cm、器高5.3cm。外面に山水文を、

内面上位には雷文を配する。5は復元口径7.2cm、器高4.9cm。高台部を欠失し、外面に山水文を描く。6・7は染付皿で、6は復元口径9.8cm、器高3.9cm。見込みを蛇の目に釉を剥ぎ取る。7は復元口径10.0cm、器高2.6cm。口縁が輪花状となり、端部は淡茶色の鯨皮状をなす。

SK038 (Fig. 7)

SK039と切り合い関係にある不整形の土塊で、検出された範囲では東西長2.0m、南北長1.0m、深さは5cmと非常に浅い。

SK038出土遺物 (Fig. 8-8)

弥生土器の底部で、底径6.7cmで底部中央がやや窪む。胴部外面は縦方向ハケ目、その他はナデ調整。

SK039 (Fig. 7)

調査地区の制限から全体を確認できなかったが、検出された範囲内では東西長3.1m、南北長1.4mを測る。堀方は西側は緩やかな4段掘りを示し、東側は急であり、深さは0.95mを測る。底部には加工木片を含む木質層が堆積していた。

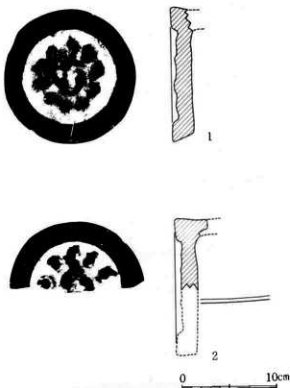
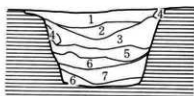
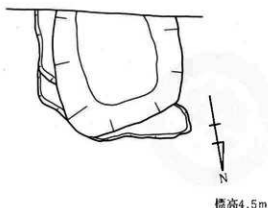


Fig. 5 SK036出土遺物実測図(2) (S=1/4)



- 1 暗茶灰色粘砂質土(暗茶褐色粒含む)
- 2 暗茶灰色粘砂質土
- 3 暗灰褐色粘砂質土
- 4 3に類似
- 5 暗青褐色粘質土
- 6 " (木屑混在)
- 7 暗青灰褐色粘質土

0 2 m

Fig. 6 SK037実測図 (S=1/40)

SK039出土遺物 (Fig. 8-9)

弥生土器の甕か器台の底部であろう。
底径9.0cm。器表が荒れており調整は不明であるが、ナデ調整か。

SK043

調査地区東端で検出された不整形の土塊であるが、低い島状の高まりを示す部分がある5ヶ所あり、土塊とするよりも自然地形的な凹地とする方が妥当かもしれない。

SK043出土遺物 (Fig. 9)

1は弥生土器甕の口縁部小片で、L字状をなす、内面に少しつまみだしている。
2は青磁碗で復元口径12.1cm、器高3.8cm、高台径3.9cm。体部は一段外側に屈曲し口縁端部を丸くおさめる。淡緑色の釉が薄くかかるが、高台は削り出しで露胎。見込みは二重に釉を削り、その間に砂目地が付着する。

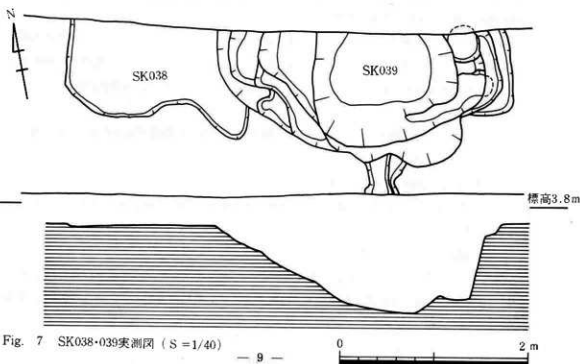


Fig. 7 SK038-039実測図 (S=1/40)

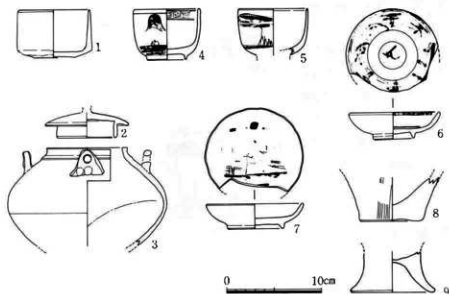


Fig. 8 SK037・038・039出土遺物実測図 (S=1/4)

(2)溝

S D001

調査地区北側を西側へ流れる小水路の旧河道で、A地区北端で南下して直角状に東へ折れ曲がった後、大きく蛇行しB地区で検出されたものである。

B地区西端から東約34m地点から南東から北東へと向きを変え、弥生時代後期の包含層を大きく削り再び南東へ蛇行する。

S D001出土遺物 (Fig.10)

1は須恵器小片で、緩い6条と急な5条の櫛書波状文が施される。2は土師質鍋で、復元口径21.4cm。外面は器表が荒れており調整不明。内面上位は荒い横ナデ調整、下位は丁寧なナデ調整。3は唐津焼の皿で、高台径5.5cm。鉄釉で内面に紋様を描く。内面と体部上位のみに釉がかかり削り出し高台。4は染付碗で、復元高台径3.4cm。外面に格子状の紋様を描く。畳付は露台。5は甕の羽口片で、外面は二次焼成を受け淡灰褐色化している。残存長6.0cm。

(3)その他の遺物

包含層出土遺物 (Fig.11)

ここでは、蛇行するS D001によって削られた弥生時代後期の土器片を含む包含層の出土遺物について述べる。図化できたのはいずれも小片の底部のみで、また器表が荒れて調整不明な物が大半である。

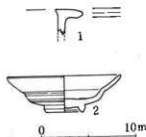


Fig. 9 SK043出土遺物実測図 (S=1/4)

1は甕の底部で復元底径9.0cm。
 底部から体部が大きく開く。2は台
 付甕の台部であろう。底径10.0cm、
 内面が黒色化している。3は底径9.4
 cm。4は復元底径9.8cm、ナデ調整。
 5は器台であろうか。底径6.8cm。
 脚部は横ナデ調整、内面はナデ調整。

石包丁実測図 (Fig.12)

ここに掲示した石包丁は、本調査
 において出土したものではない。平
 成2年度の確認調査の際に、包含層
 にあたるトレンチ内から出土したも
 のである。

全体形は長方形をなし、表裏面
 ともに比較的丁寧な研磨がなされて
 いる。2孔が穿たれ、穿孔はやや斜
 めにずれている。残存長8.0cm、最
 大幅4.7cm、厚さ0.7cm、孔径0.5
 ~1.4cm。

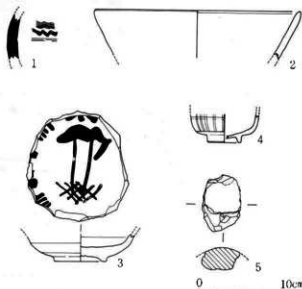


Fig. 10 SD001出土遺物実測図 (S=1/4)

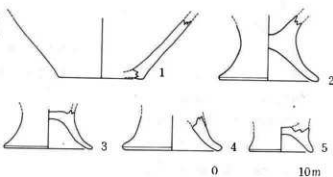


Fig. 11 包含層出土遺物実測図(1) (S=1/4)

IV. 小 結

B地区の調査は幅の狭い小水路部
 分であり、面的に十分に概要が把握
 できたとは言えない面がある。

検出された遺構は近世遺構の土壌
 が主であるが、SD001によって削平されてはい
 るが弥生時代後期の土器を含む包含層が確認され
 ている。また、石包丁も出土していることから妻
 山丘陵南山麓部に水稲耕作を営んでいた弥生時代
 の集落の存在が推定される。ただ、調査地区は集
 落の周辺にあたるものと考えられる。妻山丘陵の
 東端付近にあたる集落の様相を明らかにするため
 の資料を得ることができた。

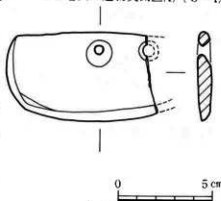


Fig. 12 石包丁実測図 (S=1/2)

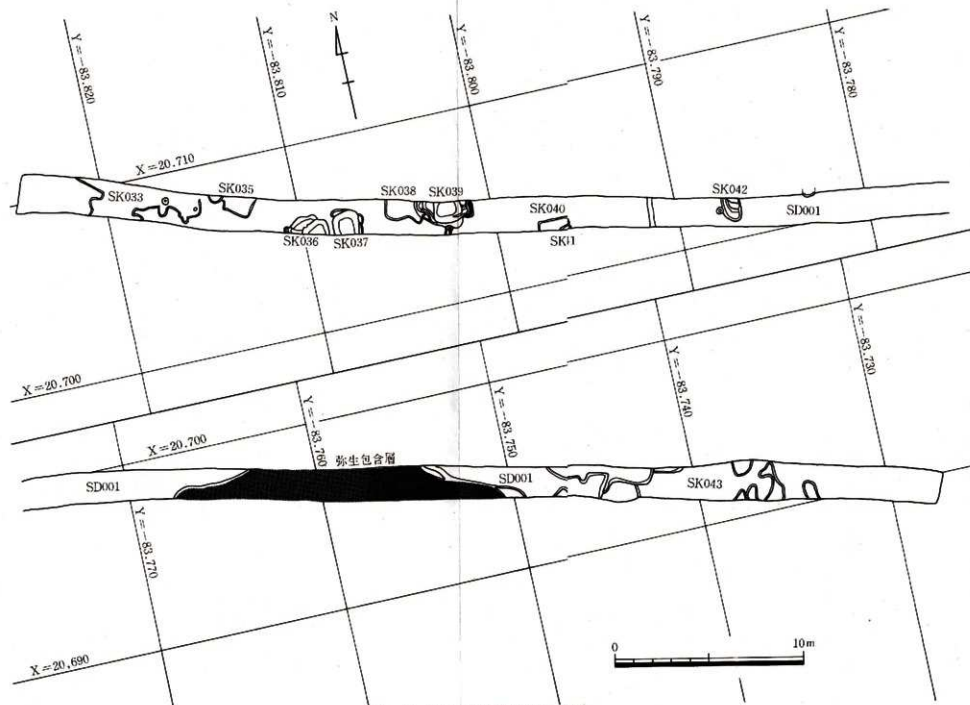


Fig. 13 B地区遺構配置図 (S=100)

圖

版



1. S K036 (西から)



2. S K036遺物出土状況 (南から)



3. S K036遺物出土状況 (東から)



4. S K036土層堆積状況 (東から)



1. S K037 (北から)



2. S K039 (西から)



3. S K043 (西から)



4. 弥生包含層 (西から)



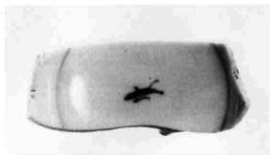
1



2



3



4



5



6



7



8

1. SK036 (4-1)

2. SK036 (4-2)

3. SK036 (4-3)

6. SK036 (4-6)

4. SK036 (4-4)

7. SK036 (4-7)

5. SK036 (4-5)

8. SK036 (5-1)



1



2



3



4



6



5



7



8



9

1. SK036 (5-2) 2. SK037 (8-1) 3. SK037 (8-2) 4. SK037 (8-3)
5. SK037 (8-4) 6. SK037 (8-5) 7. SK037 (8-6) 8. SK037 (8-7)
9. SK037 (8-8)



1



2



3



4



5



6



7



8



9

1. S K039 (8-9)
2. S K043 (9-2)
3. S D001 (10-1)
4. S D001 (10-3)
5. S D001 (10-5)
6. 包含層 (11-2)
7. 包含層 (11-3)
8. 包含層 (11-5)
9. 包含層 (12)

白石町文化財調査報告書第5集

妻 山 遺 跡

— B地区 —

平成5年3月31日

発行 佐賀県白石町教育委員会
佐賀県杵島郡白石町大字福田1809番地1

印刷 鹿島印刷株式会社
佐賀県鹿島市古枝甲249番地3

